



北海道大学 SDGsスタートアップガイドブック2024 (教職員用)

ダイジェスト版 No.2 「北大のサステイナビリティ・SDGsへの取り組み」

北海道大学SDGsスタートアップガイドブック (教職員用) ダイジェスト版について

北海道大学は2022・2023年度出張FD・SD研修「北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動」を全教職員を対象に実施しました（全30回の受講者は、のべ2300人以上、教職員の約59%、FD・SD研修内容はELMSからオンデマンド利用可能です）。参加教職員からSDGs取り組みへの様々なご意見をいただき、今回SDGsガイドブックを新たに作成しました。FD・SD研修後の補助資料として、またこれからSDGsの取り組みを始めた方のためのスタートアップやリ・スキリングへの機会のための導入資料集としてご利用いただけます。

SDGsスタートアップガイドブック目次構成

- ・SDGs概要（事始め「2030アジェンダ」、様々なステークホルダー（政府・自治体、産業界、教育機関、大学連携）の取り組み）
- ・北大のサステイナビリティ・SDGsへの取り組み（フィールド資産の歴史と活動、戦略・中期目標・ビジョン・価値創造プロセス、教育、研究、社会連携、評価）

- ・SDGs関連データベース、コンテンツ、参考サイト（教育・研究、研究論文SDGsフィルター分析、映像コンテンツ、OCW、研究者によるSDGs動画講義）
- ・Q&A（FD・SD研修でいただいたご質問への回答）

教職員各自の活動が全てSDGsに繋がると言う気づきを促すことによって、学内のエンゲージメント（一体感）の醸成や総合力の発揮、SDGsの枠組みからの倫理観の浸透などが期待され、これにより経営層、教職員、学生を含めた構成員全体の、サステイナビリティやSDGsを基盤としたtalent developmentが可能になると考えています。

このダイジェスト版では、ガイドブックから「北大のサステイナビリティ・SDGsへの取り組み」部分の内容をピックアップしてご紹介いたします。詳細内容は、スタートアップガイドブックの本編をご利用ください。どうぞよろしくお願いいたします。

サステイナビリティ推進機構
SDGs事業推進部門
2024.4.30

* アンケート回答のお願い

「北海道大学SDGsスタートアップガイドブック2024（教職員用）本編/ダイジェスト版」をご覧いただきまして、誠にありがとうございます。
皆さまのご意見やご感想を、次回ガイドブック作成の参考とさせていただきますので、アンケート受付フォームへの回答ご協力をよろしくお願いいたします（随時受付中）。

受付フォーム：

日) <https://forms.gle/vnVWgEwK1VSUc5qEA>
英) <https://forms.gle/bhnyirSFBCpmYCz17>

お問い合わせ：

サステイナビリティ推進機構SDGs事業推進部門
sdgs@facility.hokudai.ac.jp
<https://sdgs.hokudai.ac.jp/contact/>
TEL 011-706-4605

3 北大のサステイナビリティ・SDGsへの取り組み

スタートアップガイドブック本編のページ
◎はダイジェスト版で紹介している部分

1. フィールド資産の歴史と活動	
1. 札幌農学校から150年、大学マネジメントの観点/FD・SD、組織図	◎ 26
2. 先住民への共通認識	◎ 28
3. フィールド資産等大学施設の現在地、キャンパス、研究林・実験施設等	◎ 29
4. 北方生物圏フィールド科学センター	30
5. 持続可能な開発国際戦略	31
6. G8大学サミット・札幌サステイナビリティ宣言	32
7. サステイナビリティ・ウィーク	33
8. サステイナビリティ推進機構（HU-IAS）：組織体制と事業内容	34
2. 戦略・中期目標・ビジョン・価値創造プロセス	
1. 基本理念と長期目標	36
2. 北大近未来戦略150	37
3. 2040年に向けた北海道大学の国際戦略、ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言	37
4. 中期目標・中期計画	38
5. HU VISION 2030	◎ 40
6. 持続可能性の追求	41
7. 価値創造プロセス、統合報告書、事務DX	42
8. 事務DXリスクリング	44
9. キャンパスマスタープラン	45
3. 教育	
1. 教育に関するポリシー	46
2. 高校生の進学選択肢は「SDGsを学べる大学」	◎ 47
3. SDGs体系的科目（学部1・2年、大学院1年）、教員の見える化	48
4. 専門科目（SDGsフィルター分析）、12学部のSDGs特徴1/2	49
5. 専門科目（SDGsフィルター分析）、12学部のSDGs特徴2/2	50
6. 大学院共通授業科目	52
7. Hokkaido Summer Institute、リカレント教育	◎ 53
8. 博士人材フェローシップ	54
9. 公開講座	55
10. 学生の主体的活動、起業	56
11. 地域連携教育	57
4. 研究	
1. 北海道大学の研究戦略（第4期研究戦略プラン）	◎ 58
2. 内閣府の政策 > 総合知、科学技術・イノベーション	58
3. 組織的な研究推進 1/3 研究成果の社会実装	◎ 59
4. 組織的な研究推進 2/3 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業	59
5. 組織的な研究推進 3/3 基礎科学・基礎研究による変革	60
6. 研究論文業績のSDGsフィルター分析 SciVal、研究シーズ集	61
7. KAKEN・GRANTSデータベースでSDGs検索（全国の傾向）	62
8. SDGs思考を活用する若手研究人材育成	63
5. 社会連携	
1. 北海道大学の社会連携に関する基本方針、北大HP	65
2. 公開講座・協定等、産業創出講座	66
3. DEMOLA、地方学、時計台サロン、あぐり大学	68
4. 食料安全保障、G7札幌大臣会合プレイベント、地域連携・包括連携	69
5. ゼロカーボン実証実験、DEI・先住民	70
6. 国内外の大学連携	◎ 71
7. 広報（SDGs特設サイト）	72
8. 活動報告・情報発信（サステイナビリティ推進機構専用サイト）	73
6. サステイナビリティ・SDGsに関する評価	
1. ASSC	74
2. CDP	75
3. THEインパクトランキング	76

3.1.2 ■ 先住民への共通認識

先住民への共通認識

先住民への共通認識と北大が利用する土地への敬意

北海道大学が教育・研究に利用している土地は、もともと先住民であるアイヌの人々が住んでいたところであり、北海道大学は、アイヌの歴史を背景にした環境の中で教育・研究を行っていることの共通認識を持ち続けます。

北大の共通認識への主な取り組み

■ 運営組織の設置；

- ① アイヌ シサム ウレシバ ウコピカレ ウシノアイヌ共生推進本部
(2022) <https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/ainu/>
大学本部の運営組織として、初めてアイヌ語の組織名「アイヌ シサム ウレシバ ウコピカレ ウシ」を掲げる。

・本部の主な取り組み：学生教育、教職員研修、文化振興、歴史的経緯の語り継ぎ、各年度の取り組み報告

- ② ダイバーシティ・インクルージョン(DEI)推進本部 (2022.4)
<https://www.dei.hokudai.ac.jp/>

・ダイバーシティ＆インクルージョンの推進に関する声明(2021.12)
<https://diversity.synfoster.hokudai.ac.jp/>

■ アイヌ民族と本学に関する声明；

- ・中村睦男 元総長による声明 (2005)
・笠原正典 元総長職務代理による声明 (2019)

■ 学生教育；

- ・全学生教育：学部1年「北大での学び」(2023)、大学院1年「北

大大学院での学び」(2024)の授業を新設。アイヌ民族と本学の歴史、民族多様性の尊重など全大学入学生へ教育実施。

■ 教職員研修；

- ・全教職員対象：「アイヌ民族との共生に向けた研修」を実施
(2021-) <https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/ainuminzoku/index.html>

■ 啓発活動・文化振興；

- ・レイシャル・ハラスメント防止啓発リーフレット作成(2024.4)
https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/Hokudai_Aynu_leaflet.pdf
・キャンパスガイドマップにアイヌ語併記
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/campusmap_jp.pdf
・アイヌ伝統料理を提供するフェア(2023)
・大学構内バスのアナウンスにアイヌ語を導入(2023)
https://www.hokudai.ac.jp/news/pdf/240129_pr2.pdf

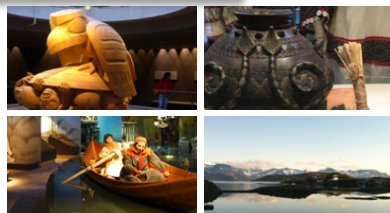
■ 研究；

- ・アイヌ・先住民研究センター(2007)
地域のアイヌ協会、釧路市と連携協定締結
・国際連携研究教育局GI-CoRE GSI国際拠点(2021-25)



先住民研究と文化多様性のためのグローバルステーション

GSI(2021-2025)は、革新的な共同研究を促進する国際研究ハブとして発足。先住民が抱える世界的・地域的課題の解決や、先住民コミュニティとの文化的多様性の本質の解明に焦点を当てます。



<https://gi-core.oia.hokudai.ac.jp/gsi/>

キャンパス、研究林・実験施設等



広大な札幌キャンパス（札幌農学校時代の第一、第二農場に由来）
キャンパスマスタープラン(p45)によって長期的・計画的に管理を実施しています

森林圏



耕地圏



水圏



大学	面積 (ha)	面積割合 (%)
北海道大学	70,150	58.1
東京大学	32,343	26.8
京都大学	7,355	6.1
九州大学	10,812	9.0
国内合計	120,660	100.0

- 札幌農学校から150年、北大は総面積 約7万haのキャンパス・フィールドの土地を保有
- 全国大学演習林協議会*（1951年設立。全国の国公私立27大学が加盟）
<https://jauf.cambria.ac/>
- *協議会加盟全国27大学77地方演習林は総計約136,930ha、日本の森林面積（約2,510万ha）の0.54%に相当する
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jisr/45/2/45_272/_pdf

・北海道内外に広く分布する農学部と理学部・水産学部にも所属していた生物系の附属施設（森林圏・耕地圏・水圏）は、2001年から「北海道大学北方生物圏フィールド科学センター」に統合され、歴史的な森林圏、耕地圏、水圏のフィールド資産が維持・管理されています。
<https://www.fsc.hokudai.ac.jp>

・また世界の海洋研究には、水産学部の練習船うしお丸、おしよ丸も活用されています。
<https://www2.fish.hokudai.ac.jp/ships/>

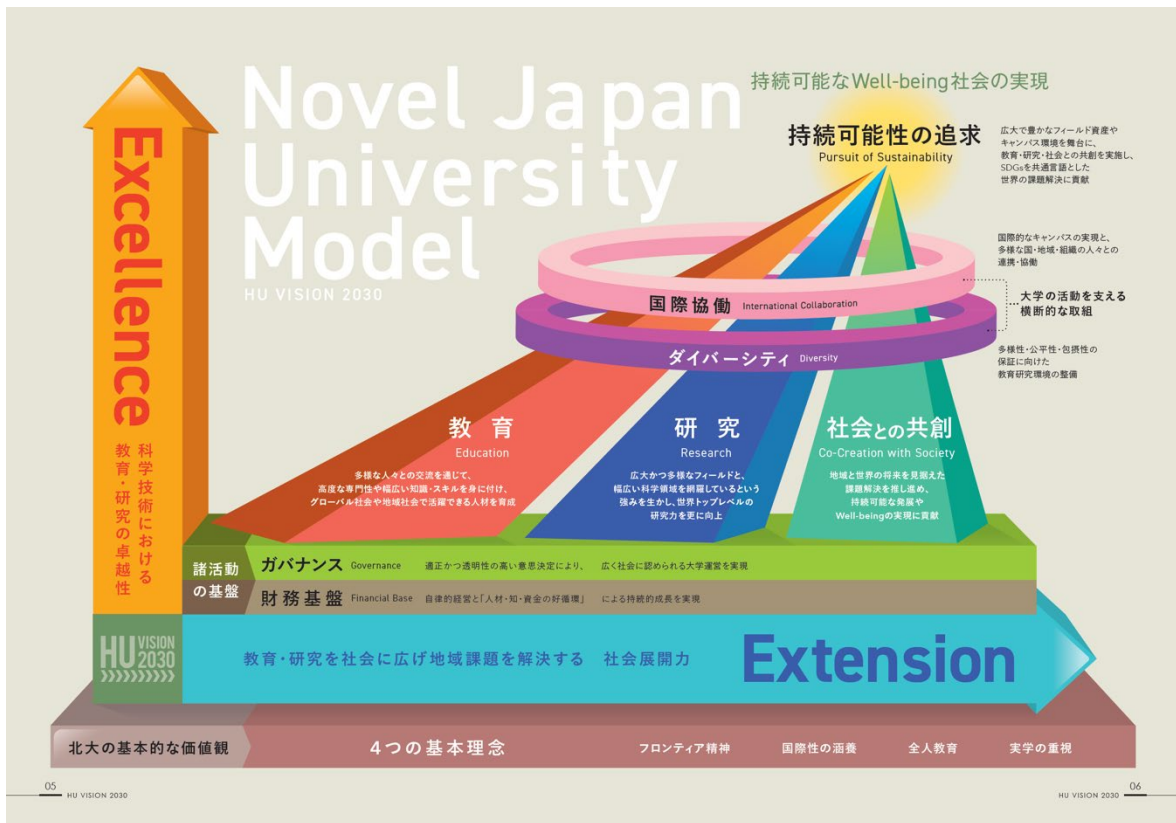
サステナビリティ・SDGsへの取り組み
(世界に誇る生きたフィールドで実証実験するリビングラボ)

- ・陸と海洋/淡水域の生物多様性保全への研究
- ・森林/海洋によるCO₂吸収や地力のセンシング技術開発
- ・フィールドを活用した大学と民間企業による共同研究
- ・市民に活動を公開するアウトリーチ；市民公開講座 など

3.2.5 ■ HU VISION 2030

- 北海道大学が目指す "Excellence and Extension"
- 1) 北海道大学のアイデンティティ
- 2) Novel Japan University Model

HU VISION 2030
(2023.7)



2014年に本学が定めた「北海道大学近未来戦略150」は、ターゲットイヤーを2026年に定め、北海道大学のビジョンを提示してきました。今回、上記のような大学のイノベーションに関する自己分析や社会の期

待を受け、HU VISION 2030は、その4年先の2030年をターゲットイヤーとして、「Excellence」と「Extension」を明確に可視化し、その統合による好循環・エコシステム創成への北海道大学の中期的ビジョンを示すものです。

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/huvision2030/>
<https://www.global.hokudai.ac.jp/about/hu-vision-2030/>

【北海道大学公式】

HU VISION 2030 の策定について - 寶金清博総長からのメッセージ

<https://www.youtube.com/watch?v=olGOvbF3ME>

Hokkaido University HU VISION 2030 - A message from President Houkin

<https://www.youtube.com/watch?v=Y5V5jfnVnh8>

1) 北海道大学のアイデンティティ

ビジョンを考える時、「アイデンティティ」の確認は必須です。歴史的背景、地理的な特性の再確認によるスタート地点の確認がなければ、明確なビジョンを考えることは不可能です。

北海道大学の起源は、1876年に設置された札幌農学校に遡ります。その設置の背景には、当時の政府が強い意志のもと、寒冷地における農業技術の開発と人材育成を行うことを目的とした経緯があり、日本の大学でも際立った成立上の特徴を有しています。本学はこの特徴を基盤として、北海道の広大な土地に唯一の総合大学として発展し、他に類を見ない個性を形成してきました。

その結果、①世界最大級の研究林と豊かな海洋研究に代表されるフィールド研究、②世界最先端をリードする複数の卓越研究、③地域課題解決を目指す社会展開力、④SDGsに繋がるサステナビリティの考えを大学創成期から持っていたことなど、極めて個性的な強みが醸成されてきました。

北海道大学は、このアイデンティティを、ExcellenceとExtensionという2つの軸の座標系で捉え、好循環・エコシステムを創成し、150年の歴史の中で醸成されてきた比類なきアイデンティティを次の150年に向けて大きく飛躍させることを目指しています。

2) Novel Japan University Model

ExcellenceとExtensionは、重なる部分もありますが、むしろ直交する座標軸と考えられます。例えば、研究におけるExcellenceは、**ディスプリン駆動型（学問駆動型）**であり、世界的に確立されている研究計測指数であるTop10%論文比率などで測定されます。これに対して、研究におけるExtensionは、**イシュー駆動型（課題駆動型）**の研究であり、その成果は、必ずしも、グローバルな研究力指標では測定されません。むしろ、社会課題の解決やSDGs達成への

貢献、スタートアップ数などの社会的インパクトでその成果が測定されるものです。

HU VISION 2030は、このExcellenceとExtensionの好循環・エコシステムを創成するための先導的取組の指針を示すものです。

HU VISION 2030を実現することで北海道大学が目指す大学像は、世界の課題解決から大きな社会的インパクトを生み出す新しい日本型の大学モデル「Novel Japan University Model」と考えています。

Novel Japan University Modelとは、従来の日本の国立大学の取組を大きく超えるレベルで、国際社会・地域社会との連携を格段に強化し、協働による社会的インパクト・イノベーションを生み出す新しい公共財であり、経営体としての日本の基幹総合大学を意味します。そして、HU VISION 2030によるNovel Japan University Modelが目指す社会は、持続可能性の追求を基盤として、①地球、②社会、③人間という3つのフィールドにおいて、大学が教育・研究・社会共創を展開し、この3つが揃って初めて実現するWell-being社会です。

このHU VISION 2030では、2030年に向けた北海道大学の先導的取組を創案するための基本的方針を8つの観点から、解像度を上げて提示します。

- 1.教育、
- 2.研究、
- 3.社会との共創、
- 4.国際協働、
- 5.ダイバーシティ、
- 6.ガバナンス、
- 7.財務基盤、
- 8.持続可能性の追求

* <https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/huvision2030/pdf/HUVISION2030.pdf>
https://www.global.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2023/09/HUvision2030en_A3-1.pdf

3.3.3 ■ SDGs体系科目 (学部1・2年, 大学院1年)教員の見える化

● 学部1年教養科目「北大での学び」(導入科目) (1単位・必修)

- 2023年度より開講
- 開講方法：第1学期（オンデマンド・対面）
- 対象：学部1年全員（～2500人）

北大での学び	担当 2023
ガイダンス	担当：繁富香織
第1回 北大の今を知る	担当：佐々木伸, 担当：江本理恵 担当：繁富香織, 担当：肖 蘭
第2回 北大の歴史を学ぶ	担当：近藤健一郎
第3回 正しく安全に学ぶために	担当：藤岡大輔, 担当：立花優 担当：安全衛生本部, 担当：重田勝介
第4回 将来を見据える	担当：亀野淳
第5回 多様性を尊重する	担当：矢野理香, 担当：長堀紀子 担当：谷本晃久, 担当：北原モコトウナ 担当：柿原佐和子, 担当：柿崎真実子
第6回 先輩とつながる(1)	
第7回 世界的な課題を知る -北大のSDGs教養- *	担当：加藤悟, 出村誠 (サステナビリティ推進機構)
第8回 先輩とつながる(2)対面	

*「北大での学び」<世界的な課題を知る> -北大のSDGs教養-
1 はじめに (導入説明)
2 世界の課題・SDGsを知る 1 ●プラネタリー・パウンドリー ●2030アジェンダ
3 世界の課題・SDGsを知る 2 ●教育メディア ●自分ゴト
4 サステナブルキャンパスの歴史と発展 ●北大の持続可能な開発 ●THEインバクトランキング
5 学部・大学院の教育課程で学ぶSDGs関連科目 ●シラバス検索 ●SDGs関連科目一覧
6 北大生の主体的活動
最後に

● 分野横断科目・学部HSI科目「国際SDGs入門」

- 開講期間：6月中旬（集中開講）2単位（選択）
- 対面コース・オンラインコース
- 対象：学生・社会人
- レベル：学部
- 担当：サステナビリティ推進機構（加藤悟）



● 大学院1年生「北大院での学び」(大学院共通授業科目) 日英版 2024開講予定

- 2023年秋タームに試行、
- 2024年度春タームから本格的実施
- 開講：オンデマンド、春と秋タームの年2回実施
- デジタルバッジによる修了証明
- 対象：全大学院(専門職大学を含む)
(MC・DC初年次生 約2500人)

北大大学院での学び	担当
第0回 ガイダンスと学内有用情報	
第1回 大学院での学び	
第2回 世界的課題: DEI とSDGs～世界をより良くするために、学術研究ができること	SDGs担当：加藤悟 (サステナビリティ推進機構)、他
第3回 北大の歴史を通じて多様性の尊重を考える	
第4回 キャリアパス	
第5回 研究公正と知的財産	

2024.4より、本授業内容は、履修学生以外も以下URLからゲストアクセスで閲覧可能
<https://moodle.elms.hokudai.ac.jp/course/view.php?id=142070>

教員のSDGs教育活動の見える化 (SDGs関連科目の公開)

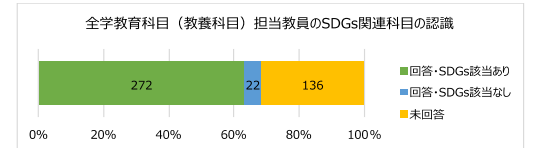


<https://sdgs.hokudai.ac.jp/for-future-students/list-of-available-classes/>

科目一覧 (SDGs関連科目)

- 全学教育科目SDGs対象一覧（教養科目群より*）
- 大学院共通授業科目（Link）
- Hokkaidoサマーインスティテュート(HSI)SDGs対象一覧
- 学士の科目一覧
- 修士の科目一覧
- 博士の科目一覧
- 専門職大学院の科目一覧

- *調査方法 (2023年度全学教育科目・教養科目[430科目])
- シラバス作成責任教員宛に、担当科目がSDGs関連か認識の回答依頼
 - 「SDGs該当あり」の認識の場合は選択した目標を回答（64%）
 - 「SDGs該当なし」の認識の場合は「該当なし」を回答（5%）
 - 調査中(未回答)（31%）



2022年度 全学教育科目SDGs対照一覧

1年次1学期		SDGs(持続可能な開発目標)																	該当なし	対象の基礎クラス
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
授業科目	講義題目	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学		
～教養教育(コア)～	札幌市の言語を調べる																			1-53
～教養教育(コア)～	マイコン制御ロボットを調べる																			1-53
～教養教育(コア)～	天然物化学への招待																			1-53
～教養教育(コア)～	森林科学への招待																			1-53
～教養教育(コア)～	病気を考える																			1-53
～教養教育(コア)～	問題解決と情報の活用																			1-53
～教養教育(コア)～	ことばと意味																			1-53
～教養教育(コア)～	持続可能な開発目標(SDGs)と生命科学																			1-53

<https://sdgs.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/68d056a0304ec9e3ab3456d5d585d971.pdf>

学部1年生* 一般教育演習（選択） 2023年度 1 学期開講科目 「該当あり」より抜粋

- 地域・グローバル社会・経済・人文・法学・公共政策
 - 民法入門
 - 情報と競争政策
 - 社会保障の諸課題～社会の仕組みを学ぼう～
 - 東ヨーロッパの越境とジェンダー
 - 地域が抱える問題を考える
 - グローバル社会で共生するための異文化コミュニケーション
 - プラドボク～都市と社会基盤を考える～
 - 動物医科学と現代社会
 - 北海道の自然と人
 - 北大発！これからの国土・地域デザイン～厳寒の森と湖の里で～
 - 実験で学ぶ経済学演習
- デモクラシー論入門
- 北大脳科学への招待
- Traveling with the Moomin Family
- 経営戦略入門
- 調査報道入門
- スキルアップ
 - 大学での学びのデザイン
 - ディスカバー 北大
 - 使って学ぶ統計学
 - キャリアデザイン-自分の未来を自分で考えよう-
 - 演劇創作を通じて考えるSDGs
 - 挑戦者になろう-未来を拓く新しい学問の世界への挑戦-
- フィールド科学
 - 森林科学への招待
 - 南極学入門-雪と氷から見た地球環境
 - 地球環境と北極域の科学
 - 海のフィールドに出よう
 - フィールド研究入門～海のデータを読み解く～

- フィールド体験型プログラム-人間と環境科学
- 北海道東部の水域生態系
- 森里海連環学 北大・京大合同演習
- 食料生産
 - 我が国の食と農
 - なぜ貧しい国はなくなるのか
 - 私たちの生活と家畜
 - 食べ物が食卓に届くまで
 - 未来の農業・環境調和とIT-
 - 牧場のくらしと自然・夏季編
 - 生物資源のかしこい利用
- 基礎自然科学
 - 持続可能な開発目標(SDGs)と生命科学
 - 「たいち」で地球を観る
 - 化学・タイムトラベル
 - 陸と海と空を巡る流れの科学
 - 北大対ゴジラ
 - 生物の環境適応
 - ゲノムを考える
 - 高分子化学の基礎

- 科学のためのイラスト
- 唾液のサイエンス～知られざるその能力～
- 極限環境微生物学入門
- 海と空の流れの科学
- オートファジー研究の基礎
- 応用科学技術
 - 未来を変えるマテリアル工学 -最先端科学で材料をデザインする-
 - 建築と都市
 - 本当に二酸化炭素は減らすべき!? マテリアル製造プロセスの最前線 -創り方が変われば世界が変わる-
 - 素晴らしい無線生活 A to Z
 - エネルギー問題ゲームの創作
- 医学・保健
 - 医学統計とデータサイエンス
 - 人類進化の論点を学ぶ
 - 生活に根差したリハビリテーション
 - 地域社会と健康 ～人々の健康を支える地域保健～
 - その他

3.3.7 ■ Hokkaido Summer Institute、リカレント教育

Hokkaidoサマー・インスティテュート2023

世界の第一線で活躍する研究者160人以上を北海道大学に招へいし、夏の5ヶ月間、本学教員とともに授業を行いました。

HSI2023開講科目数; 349科目（大学院生向け250科目、学部生向け99科目）

<https://tgu.mext.go.jp/universities/hokudai/news/2023/02/005889.html>



<https://hokkaidosummerinstitute.oia.hokudai.ac.jp>

提供されるコースは、4つのタイプに分かれています：

主に学生向け

- ① 先端研究コース
- ② グローバルリベラルアーツコース

主に社会人を対象としたリカレント教育

- ③ HSIエクステンション／プロフェッショナル・プログラム(英語)
- ④ HSIエクステンション／プロフェッショナル・プログラム(日本語)

2022 プログラム概要

- ・ SDGs入門 Introduction to SDGs
- ・ 問題解決のための国際共同学習PBL（SDGsセミナー）
International Co-learning PBL for Problem Solving (SDGs seminar)
- ・ 寒冷地におけるエネルギーセキュリティ（SDGsフィールドスタディ）
Energy Security in Cold Climate Region (SDGs Field Study)
- ・ https://hokkaidosummerinstitute.oia.hokudai.ac.jp/jp/program_overview/report/

Your interest

- ・ 日本について知る Understanding about Japan
- ・ 社会人向け For Working Adults
- ・ 北海道でのフィールドワーク Fieldwork in Hokkaido
- ・ 学部生向け For Undergraduate students

ピックアップ講義テーマ Pick Up Themes

- ・ カーボンニュートラル Carbon Neutral
- ・ 気候変動 Climate Change
- ・ 感染症 疾患 Infection Disease
- ・ 多様性 Diversity
- ・ アントレプレナーシップ Entrepreneurship
- ・ ワンヘルス One Health

アカデミックコース Academic Courses

- ・ 総合人間科学・社会科学 Integrated Humanity and Social Sciences
- ・ 人文科学 Humanities
- ・ 社会科学分野 Social Sciences
- ・ 数学・材料科学分野 Mathematics and Material Science fields
- ・ 工学分野 Engineering fields
- ・ 生命科学・生物学分野 Life Science and Biology fields
- ・ 環境科学分野 Environmental Science fields
- ・ 複合科学分野 Complex Science
- ・ アカデミック・コミュニケーション・リテラシー Academic Communication Literacy
- ・ キャリアマネジメント Career Management



Participants of the HSI course. Photo provided by OGGs.

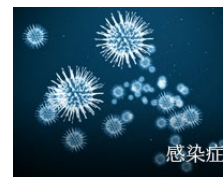
ピックアップ講義テーマ



脱炭素社会



気候変動



感染症



環境と健康および持続可能な開発目標 I



国際SDGs入門



バイオマスエネルギー利用システム



SDGsからポストSDGsを目指して



北極圏とアジアの政治経済学



SDGs基礎論：グローバルな課題認識と国際協働



生体防御学特論



多様性



アントレプレナーシップ



ワンヘルス



ガイドブックページ; 53

アイヌ・先住民研究入門 I : 先住民文化遺産・文化財返還・知的財産権(1)/(2)



SDGs基礎論：インドと日本における社会基盤工学 (STSI) -OGGs



SDGs基礎論：アジア諸国と日本における人口・活動・資源・環境の連環 (PARE) -OGGs



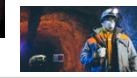
SDGs基礎論：北方圏と日本における環境・文化・開発 I (NJE3) -OGGs



観光と持続可能な開発の経済地理学



創業ビジネス特別ワークショップ (起業セミナー)



環境汚染の調査と評価・修復の実践



<https://oggs.oia.hokudai.ac.jp/recruiting>

OGGsプログラムについて

One program for Global Goals (OGGs) は、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を目的に設立された大学院生のための**国際必修プログラム**です。SDGsに代表される地球規模の課題を取り上げるため、様々な専門領域の教員と、多様な関心を持った学生が参画する、領域横断性に特徴があります。

OGGsプログラムは3コースあり、海外の協定校の学生とともに、講義やフィールドワークを通じて、持続可能な社会を実現するために必要なこと、大切なことを学び、考えていきます（イベントや授業は英語で行われます）。

対象学生

北海道大学の大学院生（修士課程・博士課程）

もしくは本学大学院に進学予定の学部4年生で大学院共通授業科目の



早期履修が認められている者。

プログラムの構成

短期間の海外派遣を含む「基礎プログラム」と、中長期の留学によって専門性を高める「発展プログラム」が用意されています。

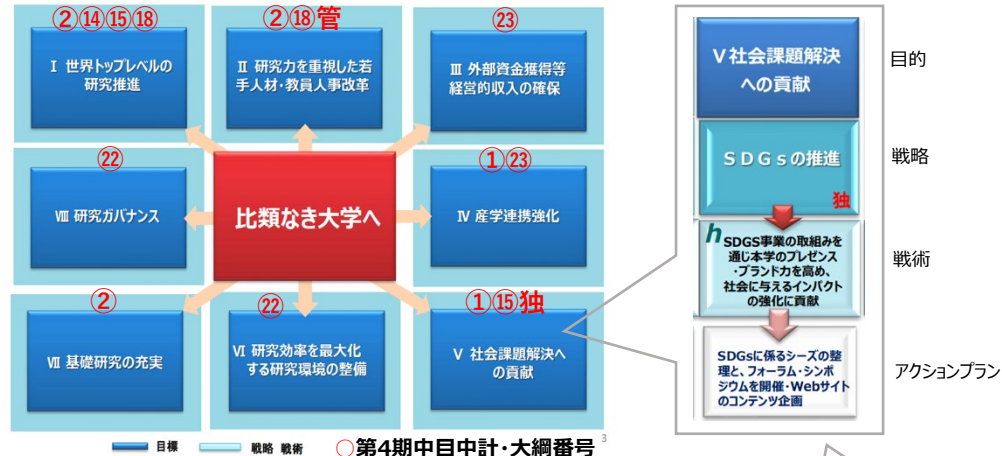
コース選択

- ・ **PARE**コースは、「人口(Populations)」「活動(Activities)」「資源(Resources)」「環境 (Environments) 」に関連する様々な問題を解決し、アジアの発展に主導的な役割を果たすことができるフロンティア人材の育成のため、北海道大学と**インドネシア・タイのパートナー大学**が協働で実施しています。
- ・ **NJE3**コースは、植生の変化、海水域面積の減少といった地域環境の重大な変化の中で、**北方先住民族**が文化的多様性を維持しています。NJE3が実践する各研究分野がつながり合うことで得られる複合的・総合的な観点を持った地域専門家の育成を目指しています。
- ・ **STSI**コースは、**インド**における輸送システムと社会インフラ構築及び環境に関する種々の課題について自らの専門性を活かしつつ、課題解決のために協力しあうチーム型国際協働研究力を有する人材の育成を目指しています。北海道大学とインドの最高峰に位置する**インド工科大学3校**が協働で実施しています。

3.4.1 ■ 北海道大学の研究戦略（第4期研究戦略プラン） 研究戦略室

第4期北大研究戦略全体構想図 (曼荼羅マトリクス)

<https://www.hokudai.ac.jp/research/research/plan/>



北大研究戦略－第4期研究戦略プラン－

研究戦略室では、第4期中期目標・中期計画における各指標の目標達成を始め、成果を中心とする実績状況に基づく配分（客観・共通指標）の指標値の向上に向けて、「北大研究戦略－第4期研究戦略プラン－」を策定しました。

この研究戦略は、北海道大学近未来戦略150に掲げる目標、計画骨子や中期目標・中期計画の研究関連の項目等をベースとしており、チャート図とすることで全体像を可視化し、現状や今後の対応策を一目で把握できるようにしています。

研究戦略室では、このチャート図を用いて、各計画の進捗管理を行っています。

第4期研究戦略全体構想図とSDGsの推進

- 「V 社会課題解決への貢献」の研究戦略に「SDGsの推進」を掲示
- 戦術「SDGs事業の取組み」を通じ大学のプレゼンス・ブランド力を高め、社会に与えるインパクトの強化に貢献
- アクションプラン「SDGsに係るシーズの整理」と、フォーラム・シンポジウムを開催・Webサイトのコンテンツ企画

- ✓ 「V 社会課題解決への貢献」第4期中期目標・中期計画[独自⑨-3]では、カーボンニュートラル達成に貢献するサステナブルキャンパスの構築・研究を推進の関連研究を重要視します。
- ✓ 「V 社会課題解決への貢献」に限らず、文系・理系研究者が全ての研究目標・戦略に関わる時にSDGsや総合知を「研究のコミュニケーションツール」として取り組むことが効果的です（次ページ）
- ✓ SDGsに係るシーズの整理にはBIツールも活用できます

3.4.3 ■ 組織的な研究推進 1/3; 研究成果の社会実装

■ 「北海道プライムバイオコミュニティ」

北海道の強みである一次産業に関連した研究開発を行い、農林水産業の持続的かつ高度化・スマート化を推進し、産業の活性化を図るとともに、外部コミュニティ連携し、市場拡大に向けて取り組む。
【対象市場】持続的一次生産システム（木材活用大型建築、スマート林業）

2030年のあるべき姿

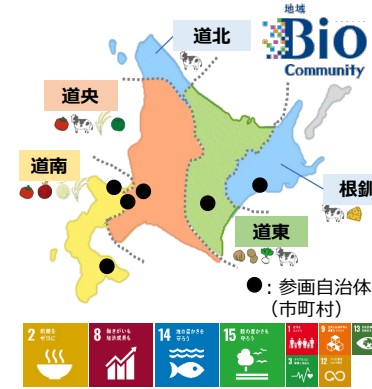
- 一次産業のスマート化による労働生産性の向上
- 鮮度保持・品質保持技術の研究や事業化の活発化
- 北海道バイオブランドの確立、国内外市場への戦略的展開
- 一次産業従事者を育成し、海外へ人材派遣

▶北海道プライムバイオコミュニティ

<https://www.hbiocom.jp/>

▶バイオコミュニティの形成（内閣府）

https://www8.cao.go.jp/cstp/bio/bio_community_siryu.html



達成を目指すSDGsの目標

内閣府 地域バイオコミュニティ
(全国4地域認定)2021年6月
国の重点戦略「バイオ戦略」や「大学等の独自性や強み」、また「大学と地域のパートナーシップ」に基づく産学官の共創による拠点の形成を推進するコミュニティ

北海道プライムバイオコミュニティの体制

<https://www.hbiocom.jp/about/>

● ネットワーク機関

北海道³連絡会 (Hokkaido Cubix連絡会)

▶ 国立大学法人北海道大学

▶ 北海道科学技術総合振興センター

● 主な構成主体 (35団体)

▶ 国公立大学: 8校

▶ 地方自治体: 7自治体

▶ 研究機関: 3機関

▶ インキュベーション機関: 1機関

▶ ベンチャー: 1社

▶ 企業等: 17社

■ 北海道ワイン教育研究センター開所式 (2023.9)



北海道ワイン教育研究センターの開所式が9月28日に挙行されました。北海道ワイン教育研究センターは、札幌キャンパス最古の建物である「旧昆虫及養蚕学教室(1901年・国登録有形文化財)」「旧昆虫標本室(1927年)」を改修し、保存活用された建物です。北海道産ワインの研究やプロモーション、人材育成の拠点として、これからの100年を見据え、北海道の新しい持続的農産産を拓いていきます。

<https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/12360/>

<https://sites.google.com/view/research-for-hokkaido-wine/home>

■ スマート農業教育研究センター開設(2023.8)



「ロボト農林水産工学国際連携
研究教育拠点構想」2018.4~

ロボット技術やICTを活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する新たな農業教育研究センターを開設(2023.8.31)。スマート農業の社会実装に向けた教育プログラムの開発と実施。2022年度から農林水産省スマート農業教育推進委託事業を実施。

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2023/09/post-88.html>



北海道ボールパークFビレッジ内に「KUBOTA AGRI FRONT」
農業学習施設開業(2023.4)

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2023/04/kubota-agri-front.html>

3.5.6 ■ 国内外の大学連携

国連大学SDG大学連携プラットフォーム (ガイドブックp23参照)

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は、SDGsの達成に向けて積極的に取り組む意欲のある日本の大学が連携できる場として、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム（SDG-UP）」を2020年に設立しました（現在32大学参加）。SDGsに関わる参加大学の取り組みワークショップ、専門家による特別講師、国際的に活躍する専門家と直接対話などSDGsを取り巻くさまざまなテーマに分かれ議論。4テーマ(マネジメント層、SDGsカリキュラム、大学評価・アカウンタビリティ、大学間連携)の分科会活動を実施。

<https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>

カリキュラム分科会では、「**国連SDGs入門**」の提供を企画。各大学が連携して授業テーマを提供。北大教員は、テーマ「環境」で貢献→北大OCWサイトでも一般公開中



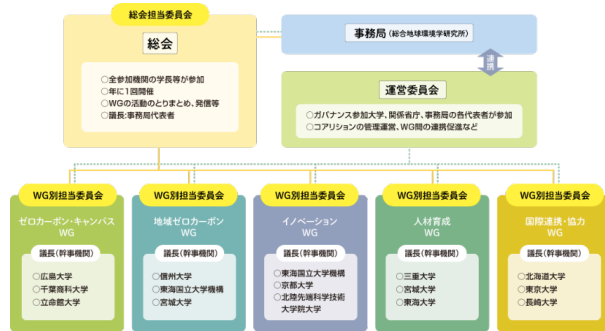
https://ocw.hokudai.ac.jp/playlist/sustainable-development-goals?movie_id=24599



https://ocw.hokudai.ac.jp/playlist/sustainable-development-goals?movie_id=24600

カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション (ガイドブックp23参照)

- 文部科学省、環境省、経済産業省が主導し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて国・自治体、起業、国内外の大学等との連携強化を通じ、その機能や発信力を高めるための大学等間ネットワーク（2021年7月29日に設立総会）
 - 北海道大学は、**5つ全てのWGに参加**。また、**運営委員会**及び「**国際連携・協力WG**」の幹事機関
 - 全国**210**の国公立大学、大学共同利用機関、高等専門学校、研究機関等が参加(2023年8月現在)
- <https://uccn2050.jp/>



IUCA (International Universities Climate Alliance, 気候変動に関する国際大学連盟)

2020年4月に発足した気候変動に関する国際大学連盟 (International Universities Climate Alliance, オーストラリア、ニューサウスウェールズ大学が発起人) に、本学は2020年11月11日付けで日本唯一の加盟校として加盟。2020年11月30日現在、世界22カ国48

機関が加盟。2020年11月21～22日にサウジアラビアで開催されたG20首脳会議開催にあわせ、本学を含む加盟校の有志37機関により、G20各国首脳に対し、気候変動に関する提言を行いました。

<https://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/consortium/climate/>

「北海道 ユニバーシティアライアンス」を北大に設置

北海道ユニバーシティアライアンス要綱（令和5(2023)年6月19日施行）

<https://www.hokudai.ac.jp/news/2023/06/post-1241.html>

GSDC (GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS) 2023 (世界持続可能な開発会議)

日時：2023年5月29日～6月1日（67か国から538の教育機関参加）
場所：KAUST（キング・アブドゥラー科学技術大学）サウジアラビア
主催：Times Higher Education (THE)



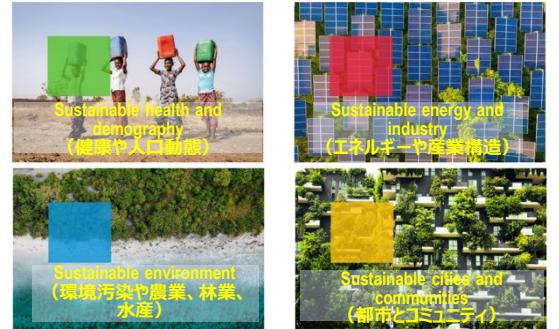
横田理事・副学長による招待講演が、2023年5月31日（水）に行われました。KAUST 環境理工学部のホン・ペイン准教授をモデレーターとする、**環境汚染や農業、林業、水産**などをテーマにした「持続可能な環境」セッションの中で、本学の概況や、日本及び北海道における農業、酪農業、水産業の現況と課題、それらの課題解決に向けた本学の取り組み、教育プログラム等について報告を行いました。

発表の要点

- 北大の概況、フィールドサイエンスの強みのもと、国連のSDGsの枠組みで大学の社会貢献度を測るTHEインバクトランキング2022等で高評価を得ていること
- 日本・北海道における**農業、酪農業、水産業の現況と課題**
- それらの**課題解決に向けた本学の研究事例紹介**
- それらの課題解決の**担い手育成のための教育プログラム**（本学教員による**学部**向け、産業界の実務家による**大学院集中コース**）
- SDGsに関する教育プログラム（**全学教育科目「北大での学び」・必修**）
- SDGs達成への取り組みと教育研究活動に関する**FD・SD研修**
- 持続可能な社会の創り手の人材育成のためには、大学の経営層が**SDGsと持続可能性の概念を大学のビジョンや方針に明示的に組み込んで、教育、研究、運営を含む取り組み全体に浸透させることが重要**

北大時報 No.833/令和5年(2023年)8月p17参照

https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_23_8.pdf



総合ランキング 世界10位 (国内1位)
/世界1406大学中 (2022)



SDG別ランキング 世界1位 (SDG2)
/世界553大学中 (2022)



THE Masterclass Japan (Times Higher Education 主催・早稲田大学、2023/6/14)において、本学がTHEインバクトランキング2020年から4年連続で国内1位を獲得したことを称える楯がTHE社のシモーン・ディレーナ アジア太平洋地区代表より授与